

写

平成24年度

射水市事務事業外部評価報告書

平成24年11月

射水市行財政改革推進会議

はじめに

射水市行財政改革推進会議（以下「推進会議」という。）では、事業の自己評価の客観性や信頼性を高めるとともに、効率的で質の高いサービスの提供につなげるため、昨年度に事業の外部評価を初めて実施した。

昨年度の外部評価では、担当課ヒアリングの結果を基に、事業の妥当性や有効性等について協議を行い、単に廃止や縮小等の区分による判定ではなく、具体的な改善内容を示した評価を行った。

当推進会議では、事業を分析・評価し、その結果を改善に結び付けていくためには、自己評価に加え、このような第三者の視点による評価が有効であると考えている。

このため、昨年度に引き続き、今年度の事務事業評価対象事業の中から、一定基準により選定した8項目13事業を対象に外部評価を実施し、このたび、外部評価報告書を取りまとめたところである。

射水市におかれては、この外部評価結果を踏まえ、今後の事業執行及び予算に反映させていただくことを切に期待する。

射水市行財政改革推進会議

会 長 中 村 和 之

副会長 奥 田 達 夫

委 員 荒 木 勇

委 員 荒 谷 泰 子

委 員 尾 山 晴 康

委 員 田 中 祥 子

委 員 福 島 晃

委 員 牧 田 和 樹

（五十音順）

1 評価対象事業

(1) 選定基準

平成24年度事務事業評価対象事業(平成23年度実施分)のうち、以下に該当する事業から8項目13事業を選定した。

事業の実施に当たり、市に裁量の余地がある事業

事業開始から3年が経過している事業

直接事業費に占める一般財源が100万円以上の事業

外部の視点から検証を行うことが有効と判断される事業

(2) 対象事業

第1評価グループ(中村委員、荒谷委員、尾山委員、福島委員)

| 項目名 | 事業名 | 所管課 |
|------------|--------------|----------|
| 学校関係補助金 | 小中学校長会補助金 | 教育総務課 |
| | 小中学校教育研究会補助金 | 教育総務課 |
| | 学校給食研究会補助金 | 教育総務課 |
| | 学校保健会補助金 | 教育総務課 |
| 学校図書館活動推進費 | 学校図書館活動推進費 | 教育総務課 |
| 生涯学習推進費 | 生涯学習推進費 | 教育総務課 |
| 全国大会等出場補助金 | 芸術文化団体派遣等補助金 | 文化・スポーツ課 |
| | 全国大会等出場激励金 | 文化・スポーツ課 |

第2評価グループ(奥田委員、荒木委員、田中委員、牧田委員)

| 項目名 | 事業名 | 所管課 |
|--------------|---------------------------|-------|
| 地域交通対策費 | JR小杉駅サービスセンター 運営費 | 生活安全課 |
| | JR小杉駅サービスセンター 運営振興会補助金 | 生活安全課 |
| 環境衛生対策費 | 環境衛生対策費 | 環境課 |
| ふれあいサロン運営費 | ふれあいサロン運営費 | 長寿介護課 |
| 高齢者労働能力活用事業費 | 高齢者労働能力活用事業費 | 長寿介護課 |

2 外部評価の実施経過

外部評価の実施に当たり、行財政改革推進会議内に2つの評価グループを設置し、担当課が作成した事務事業評価シートに基づき、作成責任者である担当課長からヒアリングを実施した。

5月23日 第1回射水市行財政改革推進会議
実施方法等の了承

8月10日 第2回射水市行財政改革推進会議
対象事業の決定

9月27日 第1評価グループヒアリング

10月4日 第2評価グループヒアリング

10月17日 第3回射水市行財政改革推進会議
各評価グループの評価結果報告
全体協議
報告書の取りまとめ

3 外部評価結果

(1) 学校関係補助金(評価シート事業 No.138、139、141、142)

各団体の活動実績からも、補助金の妥当性は十分に認められるが、一方で、積算根拠が不明確であり、透明性に疑問が残る。このため、積算基準を明確にするとともに、実績に対するチェック機能を強化するなど透明性の向上に努められたい。

また、補助金を有効に活用するため、将来的な補助金の一本化についても検討されたい。

<委員の主な意見>

学校教育における各種活動に対する補助の重要性は十分認められる。

過去何年もの間、補助金額が同額というのは不透明であり、きちんとした積算の根拠を示してほしい。

繰越が発生している補助金もあり、一つにまとめると良いのではないか。

「小中学校校長会補助金」という名称が、親睦会のように誤解を招きかねない。

(2) 学校図書館活動推進費(評価シート事業 No.147)

図書館司書が果たす役割の重要性は十分理解するが、その成果が不明確である。このため図書館司書については、学校の規模や実情を勘案するとともに、他自治体の事例も参考にしながら、より効率的・効果的な配置について検討されたい。

<委員の主な意見>

他市町村と比較して、手厚く図書館司書を配置しているので、その成果をはっきりと見せてほしい。

大規模校も小規模校も司書の人数や勤務時間が同じというのはどうなのだろうか。

司書のサービスが必要な学校、本の冊数が必要な学校と、それぞれの学校の実情に合った図書館整備が必要ではないか。

図書館司書を配置しない学校があると公平さに欠けるので、小規模校では勤務時間を減らせば良いのではないか。

(3) 生涯学習推進費(評価シート事業 No.156)

地域における生涯学習については、活動の場が公民館からコミュニティーセンターへ移行して間もないため、当面は現行どおり実施することが望ましいと思われるが、将来的な見直しに備え、各地域の活動実態や成果等の詳細を把握・検証するなど、今後の在り方を検討するためのデータ等の蓄積に努められたい。

<委員の主な意見>

移行してまだ間もないので、今すぐに補助金額を変更することは困難ではないか。

将来的に各地域振興会の意欲やニーズに応じた補助金額になる可能性もあると思うので、現段階で活動実績や活動成果などを評価する仕組みをしっかりと持ってほしい。

コミュニティーセンターに市民が何を期待しているのか、市民ニーズの把握に努めてほしい。

利用者数4万人という目標数は、増やす余地はあるのではないか。

今後の在り方を考えるために、利用実態の詳細な把握に努め、基礎的な資料やデータの蓄積に努めてほしい。

(4) 全国大会等出場補助金(評価シート事業 No.165、174)

芸術部門の補助金については、基準が曖昧であり、実績も少ないことから、廃止を含めた抜本的な見直しを検討されたい。

また、スポーツの部門の補助金については、スポーツ活動支援施策全体の中での位置付けを明確にするとともに、他自治体の動向を注視しつつ、時代に適応した激励(お祝い)の在り方について検討されたい。

<委員の主な意見>

芸術文化団体への補助金については、行政が主体となるよりも、芸文協等を通じて支援する体制の方が良いのではないか。

芸術文化団体への補助金は、実際ほとんど機能していないので、射水市内で芸術活動を行う者に補助した方が良いのではないか。

芸術文化団体への補助金はかなり曖昧さがあり、使い勝手が悪い。

全国大会等出場激励金については、金額については現状維持で致し方ないと思うが、激励金を支給する成果や意義を明確にしてほしい。

激励金というものが、行政の役割の中で優先度の高い部類に入るのか。

(5) 地域交通対策費(評価シート事業 No.025、026)

南口改札口や待合室等の必要性は十分認められるが、情報提供などの運用部分については役割を終えたと思われる。

このため、南口を利用する市民の意見も参考に、必要機能を整理し、サービスセンターの抜本的な見直しを図るとともに、北陸新幹線開業後、駅業務を担当する並行在来線第三セクター会社に、利用者の利便性確保、向上を強く働き掛けられたい。

< 委員の主な意見 >

南口改札業務は今後とも必要となろうが、駅業務は、北陸新幹線開業に伴いJRから経営分離される区間を運営する第三セクター会社が担当することになるので、強く市から交渉してほしい。

将来的には民間を活用して簡単なコンビニのようなものを設置し、その店員が改札業務を行うことも可能である。

サービスセンター施設そのものは利用者の利便性確保のため必要であろうが、現状では情報提供のために人員を配置する必要はなく、不具合発生時の対応は改札員を活用すれば足りるのではないかと。

今後、並行在来線運営第三セクター会社との交渉やサービスセンターの機能の見直しに当たっては、まず利用者の意見を聞くことが一番大切であろう。

(6) 環境衛生対策費 (評価シート事業 No.029)

現行どおり実施されたい。

なお、当該事業の必要性が主に地域の排水事情にあるならば、長期的な視点に立ったインフラ整備も視野に、排水環境の改善について検討されたい。

< 委員の主な意見 >

地域振興会による実施について、協議されたが、快諾されなかったとのこと。地域に移管しても、結局誰もしないということになる恐れがあるようだ。

インフラ整備と表裏であり、この事業単独での評価はなかなかできない。

新湊地区の排水事情が悪いという特殊事情を考慮した場合、他の地域のアメリ口防除のように薬剤費用を地域である程度負担してもらうやり方はトータルで考えると難しい。

公平よりも公正であるべき。

(7) ふれあいサロン運営費 (評価シート事業 No.069)

利用者の少ない新湊南部ふれあいサロンについては、抜本的な見直しを検討されたい。

その他のサロンについては、事業内容や利用実態に見合った柔軟な人員配置を考えるとともに、事業者の参入機会を確保するため、競争入札の導入について検討されたい。

また、サロンが設置されていない地域や非利用者との公平性を考慮し、一定の利用者負担を求めることも検討されたい。

<委員の主な意見>

旧市町村からのしがらみを絶ち、現実に即した設計書を組むべき。

講座開催に人員が要るのであれば、その時に移動すればよいのであって、配置を固定しておく必要はない。

委託先の選定については、他にも引き受けられる事業者があるのではないか。また、随意契約ではなく入札にして、委託先を1つにし、事業者が柔軟な人員配置などができるようにすればよいのではないか。

利用者の少ない新湊南部ふれあいサロンは、現状のままというわけにはいかないであろう。

ふれあいサロンが近辺にないエリアとの公平性の観点から、最小限度の利用者負担を求めてもよいのではないか。その結果、利用者が減った場合はこのような大規模施設を廃止（縮小）し、小規模な場所を増やして利用者負担を求めて実施すればどうか。

(8) 高齢者労働能力活用事業費（評価シート事業 No.071）

シルバー人材センターの在り方や役割について議論を促されたい。

その上で、事務手数料の改定や人件費の削減など、自助努力による経営改善を強く求め、県内で上位にある市の補助金額の削減に努められたい。

<委員の主な意見>

できるだけ単独での黒字化を目指してほしい。

高齢化が進んでいるにもかかわらず、会員が増えていない現状についてよく考えてほしい。定年延長が進めば、もっと大変なことになる。

「収益事業」と「高齢者の生きがい」のどちらの方向に向かうかの岐路に立っていると思う。

会員は仕事に対して責任を持つ必要がある。

会員によってスキルに波が有り過ぎると、発注側もやりづらいのではないか。